

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～価値観の「三つの軸」のバランス～

「かつて、日本は敗戦の焼け跡から『今日より明日、明日より明後日』と前向きに生き、戦後復興を成し遂げ、豊かな社会を築いてきました。

しかし、経済成長が天井を打った頃から、日本の向上心に衰えが見え始めました。「物事を真面目に考えても仕方ない」「世の中こういうものだ」と分かったような顔をして斜に構える。そして、バブル崩壊と共に、日本人の勤勉性、物事に誠心誠意打ち込む一途さが一気に失われていったように思う。

戦後、日本は人間としての『生きる背骨』を失ってきているのかもしれませんが、それは大事な価値観の軸とも言えます。この軸は主に三つあると思います。」

と中西輝政さん（京都大学名誉教授）はおっしゃっています。ではどうぞ・・・

一つは、『物と心のバランス』です。確かに食べていくためには物の豊かさは必要不可欠ですが、物にばかり執着すると、心はどんどん荒んでいきます。

戦前の反動かもしれませんが、戦後の日本はあまりにも物質主義、経済至上主義に偏りすぎました。

二つ目は、『進歩と伝統のバランス』です。日々進歩していくことはもちろん大事ですが、そのエネルギーを支えてくれるのはやはり伝統の力なのです。（「不易」と「流行」）

その人や社会がどれだけの基礎、つまり伝統の縦軸をしっかりと培っているかが、どこまで進歩できるかに密接に結びついています。

戦後の日本は古典や歴史などの伝統的価値観を「意味がない」と決めつけ、捨て去ってしまいました。

三つ目は『個人と共同体のバランス』です。個人の権利と集団や人間同士の絆、そのどちらに重きを置くか。確かに個人は大切にされなければなりません、戦後の日本は徹底して個人主義を礼賛し、集団主義を悪としてきました。

このように戦後の日本はこの三つの軸が物や進歩や個人に傾きすぎ、自分の「我」をストレートに押し通す空虚な国になってしまっているわけです。

「心」や「伝統」や「共同体」の大切さにも思いを致し、バランスを取り戻すことが重要だと気づくべきでした。

そして、伝統の大切さを教えてくれる古典や歴史にもう一度光を当てて、先人の遺産を学んでいくことで社会を盛り立てる。

自分の属している共同体や人々の絆が持つ大切な意味をもう一回深く捉え直す。

幸福に生きるためには何が大事なのか。いま一度、この三つのバランスを考え直してみる必要があります。



致知 6月号 特集『読書立国』（致知出版社）より

どうでしたか？これからの社会や国の主役となる君たちへのメッセージなのかもしれませんね。

「物と心のバランス」・「進歩と伝統のバランス」・「個人と共同体のバランス」

この3つの価値観の軸のバランスは・・・

今の自分や社会を捉え直してみてもいいかもしれませんね。